

## V 社会教育行政の推進に当たって

### 1 社会教育行政の方向性

ここでは、社会教育行政を、どういう方向性を持って進めていけば良いかということにも触れておきたいと思います。そのことは、言いかえれば、社会教育行政の意義は何かということでもあります。

#### (1) 生き生きとした社会を求めて

今日、学校教育に関わって様々な問題が発生し、その解決を目指して、教育改革が大きな課題として取り上げられていることは、周知のとおりです。しかし、こうした様々な問題があることも事実ですが、明治の近代学校教育制度の創設以来、我が国の発展にとって学校教育が非常に大きな貢献をしてきたことも、事実です。

その貢献の一つは、整備された義務教育制度や高等教育機関の拡充によって、なお、課題はあるものの教育機会の均等化が一定程度もたらされ、その結果として、社会的な流動性が保たれ、社会全体の活力の増大につながってきたことです。

しかし、今日の状況をみると、例えば、いわゆる有名大学への進学者の保護者をみると、平均より所得の高い人が多い

ことなど、過熱した進学競争の下で教育の機会が逆に社会的な階層や所得等により狭められつつあるのではないかという心配が生じています。その結果として、社会的な流動性が失われ、社会全体の活力が失われていくことは、今後の我が国にとって大きな問題です。

学校教育の改革だけでは、社会的な流動性を保つ方向を目指すことは、必ずしも容易ではない現状にあります。したがって、学習することが必要な人がいつでも学べるための条件整備を促進し、生涯学習を真に市民一人一人のものにすることによって、「教育を受けた人がより多く学習する機会を得ること<sup>(22)</sup>（education more education の法則）」を克服することを目指す必要があります。社会教育行政がそういう方向を目指すことは、私たちの社会が生き生きとした社会であり続けるために大きな意義をもつものであると言えます。

## (2) 新しい文化の創造を目指して

既述のとおり、京都文化の特性の一つに重層性があります。単に、宮廷文化や町衆による文化だけでなく、様々な差別を受けた人々による文化創造の嘗みなど、京都における様々な文化の重なり合いは、京都文化を一層深みのあるものにしてきました。

しかし、今後、京都の教育・文化環境をより充実していくためには、「金と暇のある人のための社会教育」にならないようすることはもちろん、生涯学習を全市民的なものにするために社会教育を展開していくことが必要であり、そのためには、重層的な伝統文化の継承だけにとどまらず、新しい形の文化の創造を図って行くことも必要です。

こうした新しい文化の創造がなければ、21世紀の京都の発展も望めません。そのためにも、社会教育行政は、大きな意義をもっていると言えます。

## 2 社会教育行政展開の際の留意点

社会教育行政を展開する際、とりわけ、市民の要求課題に対応して、学習の場や機会を提供する際の留意点を指摘しておきます。

### (1) 多様で、多元的な学習の場や機会の提供を

将来的に一層進展すると予想される市民の学習要求や学習課題の多様化に対応していくためには、同じような種類の一元的な学習の機会や場の提供では不十分です。多様で、多元的な学習の場や機会の提供を図りながらそのネットワーク化を図ることにより、市民の生涯学習の活動を促進し、支援し

ていくことが必要です。

その場合、市民への学習機会の提供に当たっては、学習機会に比較的恵まれた人々への学習機会の提供に偏ることなく、様々な差別により学習の機会を奪われた人々など、これまで学習機会が十分に保障されてこなかった市民への学習機会の提供に十分留意しなければならないことは言うまでもありません。

## (2) 気軽で親しみやすい生涯教育を

学習の場や機会の提供に当たっては、市民の自発的な学習要求・意欲を効果的に学習活動に結び付けていくため、あらゆる市民にとって、気軽で親しみやすいものでなければなりません。学習は、何も机に向かうことだけを意味するものではありません。「遊び」や「楽しさ」といった要素を十分に生かしていくことが必要です。

それは、市民の余暇活動への多様な意欲や欲求を自発的な「学習活動」に結び付けていくことができるシステムづくりが必要であるということです。

その意味で、狭義の「教育」や「学習」にとどまらず、遊び・趣味・レジャー的要素も含めた学習活動に対応できる生涯教育を目指していく必要があります。

### (3) 地域と密接な関わりを

これから生涯学習・生涯教育の推進を考えるとき、学習する人々の立場からしても、単に個人、個人による学習活動だけでなく、「寄り合い」交流を通じ、地域生活の一環として生涯学習の活動を進めることが大切です。また、生涯教育の面からは、こうした生涯学習の活動を積極的に支援するため、地域生活に直接関連する学習課題を取り上げて地域での教育活動を進めること、すなわち「地域への進出」が大切になってきます。

その場合、行政が地域ごとに学習の場や機会を提供するなどして直接関わるのか、あるいは、地域住民の自主的な活動を支援する形をとるのか、学校教育との関わりをどうするか、さらに、各区文化協議会・文化普及会等の地域における文化活動との連携をどうするのかなど検討しなければならない課題は多くあります。いずれにしても、生涯学習・生涯教育と地域社会との具体的な関わりについて、今後の社会教育行政の展開の際に留意することが必要です。